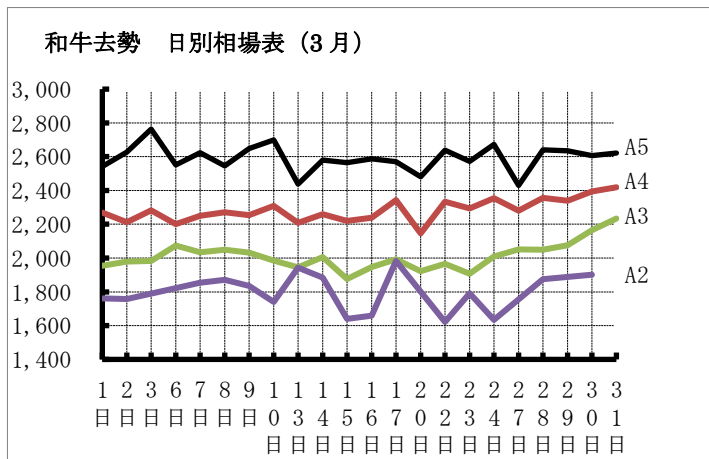


牛肉営業部

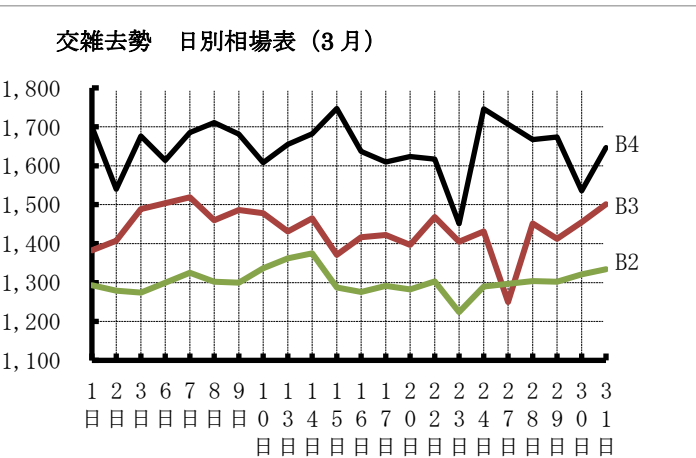
＜3月の相場動向＞

年間の中でも最も需要が低迷する月の一つである2月が終わり、3/13以降には感染症対策のマスク着用義務が緩和された。卒業式・花見シーズンに突入し、牛肉需要の回復が期待されたものの、相場は低迷した。エネルギーコストの上昇をはじめ、物価の上昇による消費者の節約志向により牛肉需要は低迷、全ての品種・等級で前年実績を下回る結果となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均		前年同月比		前月比	
A5	2,612円	-57円	97.9%	66円	102.6%	
A4	2,283円	-134円	94.5%	83円	103.8%	
A3	2,000円	-199円	91.0%	39円	102.0%	
A2	1,775円	-199円	89.9%	44円	102.5%	



交雑去勢 (月平均)

	加重平均		前年同月比		前月比	
B4	1,647円	-38円	97.7%	36円	102.2%	
B3	1,442円	-104円	93.3%	62円	104.5%	
B2	1,301円	-88円	93.7%	98円	108.1%	

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均		前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—	
B2	1,022円	-50円	95.3%	207円	125.4%	

＜4月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、2月の輸入量は前年同月比0.6%増の3万7,990tで、うちチルドは18.9%減の1万3,325tと下回った。フローズンは、前年同月比15.5%増の2万4,664tと上回った。

農畜産業振興機構によると3月の牛肉輸入数量は、前年同月比3.5%増の3万5,100t（チルド9.3%減・冷凍16.4%増）、4月は19.7%減の4万9,400t（チルド14.1%減・冷凍22.4%減）で予測している。輸入牛肉については前年の数量が落ち込んでいたため、大きく増えているわけではない。

輸入牛肉通関量		2月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	3,821	6,287	60.8%
	米国	8,560	7,983	107.2%
	その他	944	2,162	43.7%
	合計	13,325	16,432	81.1%
フローズン	豪州	7,964	9,008	88.4%
	米国	10,394	6,196	167.8%
	その他	6,306	6,142	102.7%
	合計	24,664	21,346	115.5%

出典：食肉速報 単位：t

＜4月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による4月の出荷予測頭数は、全体で前年比105.2%の9万7,800頭で、品種別にみると和牛は3.2%増の4万4,300頭、交雑種は12.8%増の2万4,100頭、乳用種は3.6%増の2万8,000頭と予測している。

東京食肉市場の4月のと畜頭数は7,420頭を予定している。

＜4月の牛枝肉相場見通し＞

新型コロナウイルスの新規感染者数も減少傾向に転じていることや、感染症対策の緩和により外出や観光の活性化が見込まれるものの、全体として消費者の節約志向は継続する見込みであり、外食をはじめとした牛肉需要が大きく回復するとは言い難い。しかし、訪日外客数について2月は147万5,300人と前月に引き続き100万人を超え、前年実績の8724.1%増となった。伸び率では1月よりも上回っており、更なるインバウンド需要の拡大に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400～2,800	B4	1,400～1,650
A4	2,150～2,350	B3	1,200～1,300
A3	1,950～2,100	B2	1,100～1,200
A2	1,800～1,950		
乳牛去勢			
B3	1,000～1,050		
B2	850～950		

豚肉営業部

2月の全国と畜頭数は、前年同月比1.6%減の131万1,611頭。また2月の豚肉通関数量は7万1,321t（前年同月比0.8%減）と前年を下回った。内訳はチルドが3万907t（12.1%減）、フローズンは4万414t（10.0%増）前年同月を上回った。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
比	99%	99%	86%	121%	97%	101%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

2月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	15,306	89.7%	デンマーク	48,41	82.4%
カナダ	12,635	81.3%	スペイン	15,009	140.7%
メキシコ	2,964	116.2%	メキシコ	6,475	94.2%
			アメリカ	2,362	110.6%
			カナダ	2,505	118.9%
合計	30,907	87.9%		40,414	110.0%

単位：t

＜3月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	67,400	604	586	748
2日	65,800	603	587	683
3日	65,500	604	588	958
6日	66,100	603	596	756
7日	67,400	594	588	849
8日	62,600	623	596	576
9日	65,500	596	583	771
10日	63,400	576	553	1,016
平均	65,463/日			795/日

全国と畜頭数は6万頭台で推移した。産地によっては出荷頭数にバラつきがあることに加え、輸入チルドポークの供給が不安定なこともあり、国産豚肉の荷余り感は見られなかった。需要の端境期だったが相場は強もちあいの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	65,100	580	564	766
14日	68,500	580	568	929
15日	68,300	574	564	829
16日	67,700	570	553	762
17日	68,300	570	561	1,033
20日	74,400	565	549	863
22日	72,900	559	551	937
平均	69,314/日			874/日

関東では例年より早く桜が開花した。春休みに入り学校給食が中断する一方で、花見や行楽需要の本格化によって焼き材などの荷動きが良好化した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	72,300	557	551	943
24日	69,300	564	551	981
27日	66,900	570	566	720
28日	69,300	566	550	1,005
29日	67,000	554	534	847
30日	67,900	532	515	754
31日	64,600	516	488	986
平均	68,186/日			891/日

年度末による買い控えが影響したことで徐々に相場は軟調な展開となった。全国と畜頭数は6万頭台後半で推移したが、輸入物の相場高などによって全体的には荷余り感は見られなかった。

＜4月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和5年4月の肉豚出荷予測では136万6,000頭（前年比99.0%）と予測している。

当市場の4月集荷予定せり頭数は1万6,500頭、1日あたりでは約825頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると4月分の豚肉輸入見込数量は、総量で9万6,600t（同88.8%）、内訳は冷蔵輸入量が3万3,100t（同88.7%）、冷凍輸入量は6万3,500t（同88.8%）と予測。

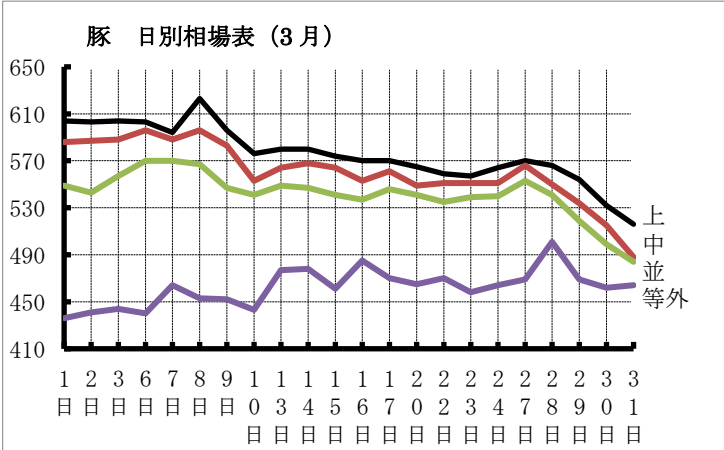
冷蔵品輸入量は、為替の影響や主な輸入元である北米の現地相場の高止まり等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

冷凍品輸入量は欧州の現地相場の上昇や為替の影響に加え、前年同月の輸入量が例年より多かったこと等から、前年同月かなり大きく下回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をわずかに上回ると予測する。

4月の末端需要は新学期で学校給食が始まるほか、中旬からはGWに向けた手当の動きが強まることにより、相場が上昇する可能性が高い。また、脱コロナ社会の中、外食需要は期待できるものの、食品価格の値上げで消費者の節約志向が強く、小売需要は引き続きスソ物中心の引き合いとなることを予想される。

出荷頭数は関東地域で流行しているPEDの影響によって減少傾向となることが予想され、産地指定があれば市場買いの動きもみられる可能性が高い。

以上のことから当市場の上物平均価格は580円前後、中物平均価格560円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127